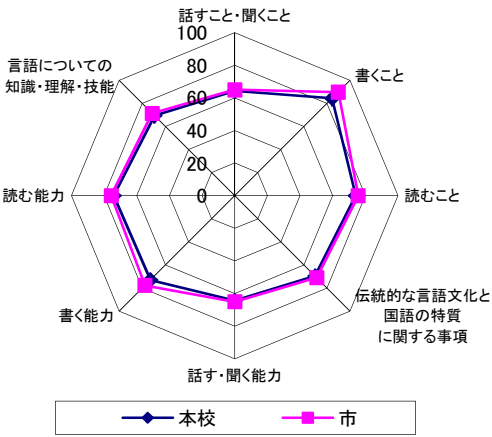


宇都宮市立御幸小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	64.3	64.9	69.8
	書くこと	84.3	89.8	81.9
	読むこと	74.1	75.6	75.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.6	71.0	75.0
観点別	話す・聞く能力	64.3	64.9	69.8
	書く能力	73.0	77.7	73.7
	読む能力	74.1	75.6	75.1
	言語についての知識・理解・技能	69.4	71.4	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

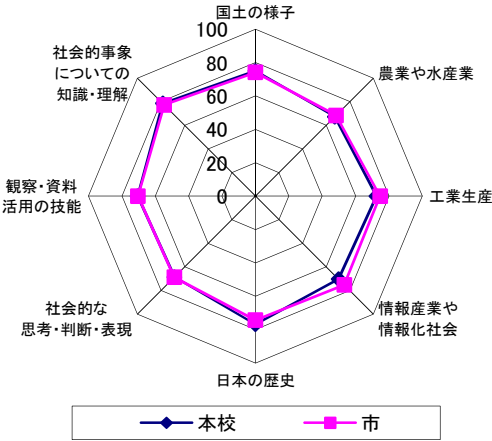
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●本校の平均正答率は、市の平均をやや下回った。 ○「話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞く」という設問の正答率が高かった。 ●「司会者の役割を理解して、計画的に話し合う」という設問の正答率が12.7%とかなり低かった。	・話し合いの学習を行う際、これまで通り話し手の意図や工夫を考えながら聞くことができるようにする。そして、役割を固定することなく、話し手や聞き手、司会者など、それぞれの立場にたって話したり聞いたりすることができるようにしていく。
書くこと	●本校の平均正答率は、市の平均正答率を5.5ポイント下回った。 ●「2段落構成で文章を書く」という設問の正答率が市の平均を17ポイント下回った。 ○「自分の意見とその理由を区別して書く」という設問の正答率が高かった。	・段落構成を意識しながら、指定された文字数で書く学習の機会を増やしていく。国語の学習だけでなく、他の教科においても文章を書く機会を設け、作文力が高まるようにする。
読むこと	●本校の平均正答率は、市の平均正答率を1.5ポイント下回った。 ●「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」「2つ意見文を読み比べる」の設問の正答率が低かった。	・「物語」については、登場人物や中心人物についての描写に着目しながら、教材文を読み取っていく。 ・「説明文」については、段落相互の関係を的確に押さえながら読んだり、要点を確認しながら読んだりすることができるようにする。また、接続詞や指示語などに注意しながら読み取るよう指導していく。 ・「2つの意見文の読み比べ」については、パンフレットや資料の文章構成を確認しながら、内容の読み取りができるように指導していく。 ・様々な分野の図書に触れることができるよう、読書を奨励していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●本校の平均正答率は、市の平均正答率を1.4ポイント下回った。 ●「5年の配当漢字を書く」の設問で市の平均を17ポイント以上下回るものがあった。 ●「尊敬語の使い方」の設問の正答率が低かった。	・漢字の読み書きについては、ドリル等で繰り返し学習を行い、小テストや宿題などで定着を図っていく。前学年の漢字の読み書きについても繰り返し学習するようにし、定着を図るようにする。 ・国語辞典の活用を図り、言葉に関心を持てるように指導していく。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	75.0	74.1	72.5
	農業や水産業	67.3	68.4	61.6
	工業生産	72.5	74.7	68.2
	情報産業や情報化社会	70.4	75.3	74.0
	日本の歴史	76.8	74.4	69.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.6	68.7	64.2
	観察・資料活用の技能	70.6	70.3	68.1
	社会的事象についての知識・理解	78.5	77.3	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

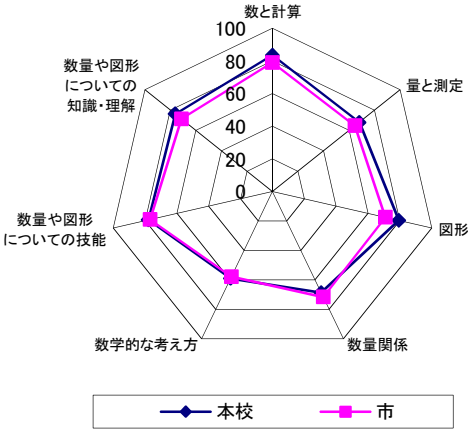
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○本校の平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同じであった。 ●「日本の周辺の海洋名」の理解が、市の平均正答率を8.2ポイント下回った。 ○「日本海側の気候のグラフについて、該当する地域を指摘する」設問では、市の平均正答率を16.2ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常的に地図帳を活用し、学習に出てくる国や地域を地図帳で確認することを継続して行い、興味や関心を持てるようにしていく。また、日本の地形や位置について名称を覚えさせるようにしていく。
農業や水産業	●本校の平均正答率は、市の平均正答率をやや下回った。 ○「品種改良について」の設問では資料をもとに判断することが市の平均正答率を3.4ポイント上回った。 ●「食料生産に関する地図の読み取り」の設問では、市の平均正答率を5.8ポイント下回った。	・日本の食糧問題に関する時事的な話題を取り上げたり、映像資料や資料集を活用するなどして、児童の関心を高める工夫をする。 ・資料やデータの読み取りを丁寧に行い、気が付いたことを友達と共有する機会を設け、関連性や特徴を読み取る力を育てる。
工業生産	●本校の平均正答率は、市の平均正答率を2.2ポイント下回った。 ●「日本の工業地帯や工業地域の特色について、地図を読み取る」設問では、市の平均正答率を4.7ポイント下回った。	・日本の工業問題に関する時事的な話題を取り上げたり、デジタル教科書を活用するなどして、児童の関心を高める工夫をする。 ・資料やデータの読み取りを丁寧に行い、気が付いたことを友達と共有する機会を設け、関連性や特徴を読み取る力を育てる。
情報産業や情報化社会	●本校の平均正答率は、市の平均正答率を4.9ポイント下回った。 ●「情報の利用の仕方の判断」や「情報ネットワークについての考察」の設問では5ポイント前後下回った。	・情報の働きは、国民の生活に大きな影響をおよぼしていることやマイナスの影響などについて具体的に取り上げ、現実的な問題として関心を高める指導の工夫をする。 ・「もし、誤った情報が伝えられたら」と具体的に問いかけ、受け取る側の選択・判断の大切さに気付くようにする。
日本の歴史	○本校の平均正答率は、市の平均正答率より2.4ポイント上回った。 ○各時代の設問では、ほぼ市の平均正答率を上回った。	・日本の歴史に対する関心が高く、理解に結びついている。今後も各時代の代表的な出来事や人物について、単に暗記をするのではなく、出来事同士の関連や時代背景などについて、総合的に考えられる力を育てていく。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.5	79.0	78.9
	量と測定	68.0	64.6	66.2
	図形	79.4	70.9	77.8
	数量関係	68.7	71.6	66.6
観点別	数と計算			
	量と測定			
	図形			
	数量関係			

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

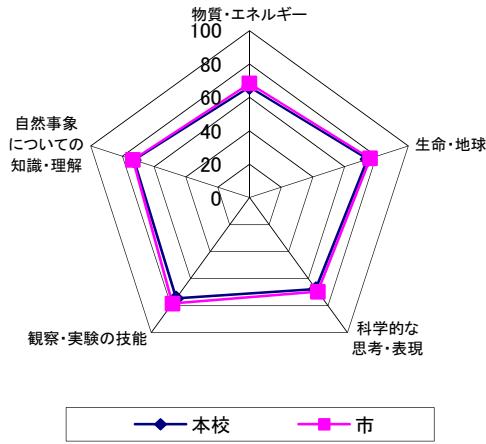
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は市の平均正答率を4. 5ポイント上回った。 ○特に分数の乗法・除法の計算の正答率が高かった。 ●「分数の除法の文章問題を表した図を選択」する設問の正答率がやや市の平均正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎力を身に付けるために、算数の授業開始と同時に計算ストレッチを行ってきた効果が現れてきている。今後も続けていくとともに、さらにドリル等を活用して効果的な指導を工夫していく。
量と測定	○本校の平均正答率は市の平均正答率を3. 4ポイント上回った。 ○円、平行四辺形、台形の面積を求める設問では、市の平均正答率を上回った。「展開図を組み立ててできる三角柱の体積を求める」設問では、12. 6ポイント上回った。 ●「単位量当たりの値を求める式がどのような大きさを求める式かを説明する」設問では、市の平均正答率を上回っているものの29%とかなり正答率が低かった。	・「単位量当たりの値を求める」のように前学年の学習内容でも、理解が不十分な内容については、定着が図れるように、復習していけるようにする。
図形	○本校の平均正答率は市の平均正答率を8. 5ポイント上回った。 ○「図を見て、五角形の和を求める式を選ぶ」設問では市の平均正答率を14. 5ポイント上回った。 ○「円の直径をもとに円周を求める式」の設問では、市の平均正答率を23. 8ポイント上回った。 ●合同な三角形の作図では市の平均正答率を6. 8ポイント下回った。	・習熟度別少人数指導により、よりきめ細やかな指導をすることで、図形に関する知識が定着している。今後も習熟度別にあった指導方法を考え、児童の理解に結びつくようにしていく。 ・合同な三角形の作図では、作図の条件などを理解させた上で作図できるようにし定着を図っていく。
数量関係	●本校の平均正答率は市の平均正答率をやや下回った。 ●文字の式では市の平均正答率を10ポイント以上下回った。 ●割合と比の設問では、38%の正答率の設問があった。	・文字式の作り方から復習し、文字が何を表しているか理解できるようにして、練習問題に取り組ませ、定着を図るようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.3	68.3	68.1
	生命・地球	74.5	76.0	73.8
観点別	科学的な思考・表現	67.7	69.7	68.0
	観察・実験の技能	74.6	78.4	77.0
	自然事象についての知識・理解	72.8	73.4	73.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●本校の平均正答率は市の平均正答率をやや下回った。 ●ふりこのきまり、物のとけ方、電流のはたらき、物のもえ方、水溶液の性質の問題では市の平均正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ある事象についての課題・予想・実験手順・考察を一つ一つ丁寧に確認する時間をより多く設け、体験的に学べる機会を増やし、技能面の定着を図る。
生命・地球	●本校の平均正答率は市の平均正答率をやや下回った。 ●魚のたんじょう、直物のつくりとはたらき、生物とかんきょう、水よう液の性質の問題では、市の平均正答率を下回った。 ○動物のからだのつくりとはたらきの問題は市の平均正答率を5ポイント以上上回った。	・児童の理解がより確かなものとなるよう、指導の際に資料や映像を多く活用していく。また、事象について一つの見方だけでなく、多面的に考え自ら行った予想と結果を推論し、話し合う時間を設ける。